

令和8年

山形市二十歳の祝賀式

奇跡∞軌跡

～紡ぐ山形の若葉たち～

令和8年1月11日(日)

山形市総合スポーツセンター

入場開始：午後0時30分～

〈オープニングイベント 午後1時30分～〉

開式：午後1時45分～



式次第



- | | |
|-----------------------|--------------|
| 1 開式のことば | 二十歳の祝賀式実行委員会 |
| 2 国歌斉唱 | |
| 3 山形市民の歌斉唱 | |
| 4 お祝いのことば | 山形市長 佐藤孝弘 |
| 5 励ましのことば | 山形市議会議長 丸子善弘 |
| 6 「これまでのライフログ※」 | 二十歳の祝賀式実行委員会 |
| 7 二十歳の決意「これからのライフログ※」 | 二十歳の祝賀式実行委員会 |
| 8 閉式のことば | 二十歳の祝賀式実行委員会 |

※「ライフログ」：一人ひとりの歩みの記録

主催：山形市・山形市教育委員会

パンフレットデザイン：二十歳の祝賀式実行委員 片桐咲希



二十歳の皆さんに贈ることば

山形市長 佐藤 孝弘

本日、晴れて二十歳の祝賀式を迎えられました皆さん、誠におめでとうございます。また、これまで深い愛情をもってその成長を支え、見守ってこられました御家族の皆様、教え導いてくださった多くの方々に敬意を表しますとともに、心よりお祝い申し上げます。

これまでの皆さんの歩みを振り返ってみてください。ともに様々な経験をし、成長してきた仲間たちや、厳しくも温かく導いてくださった恩師の方々、そして一番近くで皆さんの成長に寄り添ってこられた御家族など、たくさんの方々の顔が思い浮かぶのではないでしょうか。支えてくださった方々への感謝を胸に、その思いをこれからの人生の力として、新たな道を切り拓いてほしいと思います。

さて、山形市では、「健康医療先進都市」「文化創造都市」の2大ビジョンのもと、持続可能なまちを目指し、このまちに住み続けたいと思えるようなまちづくりに取り組んでいます。そうした中、昨年は、日本最大の英字新聞社「ジャパンタイムズ」が認定する「世界に発信するに値する日本の自治体」の第1号に山形市が選定されるなど、これまで進めてきた様々な施策が実を結び、世界からも高い評価をいただいた年になりました。

このような動きを観光振興や経済の活性化に着実につなげ、山形市をさらに魅力と活力のある都市にしていくなめには、皆さんの柔軟な発想とみなぎるエネルギーが不可欠です。ぜひ、ともに私たちの「山形市」を創っていきましょう。

結びに、今後の皆さんの大きな飛躍を御期待申し上げます、お祝いの言葉といたします。



■プロフィール
1968年岩手県生まれ、山形県在住。2008年『臨床真理』で第7回「このミステリーがすごい！」大賞を受賞しデビュー。2013年『検事の本懐』で第15回大藪春彦賞を受賞。2016年『孤狼の血』で第69回日本推理作家協会賞（長編及び連作短編部門）を受賞、第154回直木賞候補。2018年に本屋大賞第2位となった『盤上の向日葵』は2025年に映画化。著書に「孤狼の血」シリーズ、「佐方貞人」シリーズのほか、『慈雨』『合理的にありえない 上水流涼子の解明』『朽ちないサクラ』『ミカエルの鼓動』『教誨』『逃亡者は北へ向かう』など多数。

山形市二十歳の祝賀式へのメッセージ

ゆづき
ゆうこ
柚月 裕子

自分の人生を歩んでください。

それは、自分で決めることです。だから、誰のせいにもできません。

道の途中、思いがけないことがあるでしょう。トラブルという崖が目の前に立ちふさがったり、

喜びという祭りがあったり、悲しみという雨が降ったり、希望という救いが現れたり。

それらすべて、あなたの人生に必要なものです。あなたが優しくなれる、強くなれる、

誰かを大事に思える、人生を豊かにする彩りです。

困ったら誰かに頼っていい。助けてくれる人は必ずいるから。

誰かと喧嘩してもいい。違う価値観があることに気づくから。

立ち止まってもいい。それまで気づかなかった景色が見えるから。

泣いてもいい。気持ちやすつきりするから。

悔やんでもいい。そこからやり直せるから。

生きていてほしい。あなたを必要とする人が必ずいるから。

どうか、自分の人生を歩んでください。

みなさまの先へ続く道が、光に満ち溢れていますように。

20年間の思い出をたどる

2005~2007

ぜんまいざむらい
映画「ハウルの動く城」
Wii (任天堂)
仮面ライダー電王
獣拳戦隊ゲキレンジャー
ふたりはプリキュア



あ
の
こ
ろ
読
ん
だ
本

かいけつゾロリ
怪談レストラン
ミッケ!
モチモチの木
こまったさんシリーズ
こびとづかん
5分後に意外な結末



2008~2010

でこぼこフレンズ 侍戦隊シンケンジャー
ゆうがたクインテット フレッシュプリキュア
映画「崖の上のポニョ」
イナズマイレブン
ゲゲゲの女房
仮面ライダーオーズ

あ
の
こ
ろ
食
べ
た
給
食

ソフト麺
わかめごはん
華風スープ
米粉パン
フルーツポンチ
クレープアイス
りんごシャーベット



2011~2013

ニンテンドー3DS 仮面ライダーフォーゼ
たまごっち 海賊戦隊ゴーカイジャー
マルモのおきて ほっぺちゃん
ゴールデンボンバー 東京スカイツリー開業
コラシヨ きやりーばみゆばみゆ
ポケットモンスター TBS「半沢直樹」
アイ・カーリー ふなっしー
はなかつぱ 林修「今でしょ」
スイートプリキュア♪ 朝ドラ「あまちゃん」
フックブックロー



2014~2016

妖怪ウォッチ 8.6秒バズーカー
アナと雪の女王 ポケモンGO
錦織圭 映画「君の名は」
壁ドン アイカツ!
ジュエルペット 五郎丸ポーズ
団地ともお
日本エレキテル連合
スーパーマリオメーカー
TBS「逃げるは恥だが役に立つ」

2017~2019

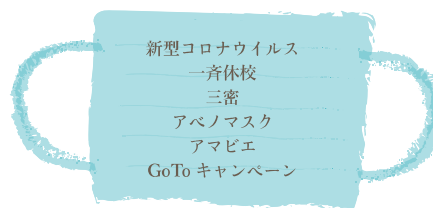
TikTok Nintendo Switch
ひよっこりはん インスタ映え
タビオカ DA PUMP「U.S.A.」
新元号「令和」 おっさんずラブ
消費税10% 大坂なおみ
PayPay 日テレ「3年A組」
映画「天気の子」 デュエル・マスターズ
ハンドスピナー
ブルゾンちえみ
チョコレートプラネット「TT兄弟」



2020~2022

あつまれどうぶつの森
鬼滅の刃
NiziU
瑛人「香水」
Ado「うっせえわ」
お笑い第7世代
べこば
呪術廻戦

東京リベンジャーズ
新庄剛志
地球グミ
イカゲーム
TBS「ドラゴン桜」
優里「ドライフラワー」
Lisa「炎」
きつねダンス
東京オリンピック



2023~2025 現在

WBC 優勝・大谷翔平 MVP
ラーズ・ヌートバー
チャット GPT
BeReal
スラムダンク
推しの子
新しい学校のリーダーズ
あのちゃん
TBS「VIVANT」
アサイーボウル
新紙幣発行

Creepy Nuts「Bling-Bang-Bang-Born」
8 番出口
大阪・関西万博
ミyakumiyak
映画「国宝」
備蓄米
高市早苗総理大臣

令和8年テーマ

「奇跡∞軌跡 ～紡ぐ山形の若葉たち～」

今日こうして再会できた“奇跡”を力に
私たち“若葉”がこれから歩む“軌跡”を自分らしく紡いでいこう

素敵な未来への一歩が踏み出せますように

山形市民の歌

1 ひんがしに蔵王を望み

西の空 月山は呼ぶ

春を待つ ひとみはもえて

われら誇る 山形市民

光はここに 山形

澁刺の都市

2 おもいでは 霞城のほと

山寺や 芭蕉の夢よ

いそいそと 摘むは紅花

われら誇る 山形市民

光はここに 山形

美わしの都市

3 陽に映える 新しい道

とどろくは 生産の歌

この稔り 日本のいのち

われら誇る 山形市民

光はここに 山形

逞ましの都市

市民憲章

わたくしたちは、樹氷とべに花の里、山形市民です。誇りと責任をもって五つの誓いをいたします。

- 1 すすんでまちづくりに参加し、明るいまちをつくります。
- 2 きまりを守り、親切であたたかいまちをつくります。
- 3 働くことに喜びをもち、活気あるまちをつくります。
- 4 自然を愛し、緑と水のきれいなまちをつくります。
- 5 老人にはやすらぎ、若者には夢のあるまちをつくります。



令和8年山形市二十歳の祝賀式実行委員

奥山かな



小林奈樹



小鹿紗椰



宮崎航平



阿部滉典



片桐咲希

Web 版

社教ニュース

ときたまご



令和7年9月2日（第2号） 山形市教育委員会社会教育青少年課

地域で活躍する若者たち

～サードプレイス村「音楽×縁日あそび」～

5月17日（土）、たかせ元気会が主催するたかせげんきまつりの中で、高楯中学校と第三中学校の有志の生徒が参加・運営するボランティア団体、「サードプレイス村」が小学生を対象に「音楽×縁日あそび」を開催しました。

メンバーは3月に行った「チルドレンワールド」（R6年度ときたまご第7号で紹介しています。）のノウハウを生かした縁日コーナーと、「たかだて吹奏楽クラブ」とのコラボレーションによる、「だるまさんがころんだ」と「ビンゴ」を企画し、準備を進めました。

当日は、各企画を楽しむ子どもと大人の姿を見て、メンバーは大満足。会場は温かい笑顔に包まれました。

～ビッキの会「ふれあい広場」～

社会教育青少年課が実施する子ども支援事業「ふれあい広場」を企画・運営するのは、約50年前に山形大学で生まれたボランティアサークル「ビッキの会」の大学生です。

6月9日（土）に開催した第1回ふれあい広場では、「みんなとなかよくなろう！」をテーマに、「猛獣狩りゲーム」や「的あてゲーム」のレクリエーション、「クルクル回るてるてる坊主」の工作を行いました。親しみやすくて頼りになる大学生のお兄さんとお姉さんと一緒に、子どもたちは楽しみながら安心して学ぶことができました。ビッキの会のメンバーは、子どもたちとの距離が近づいていることを喜んでいました。

ビッキの会ではInstagramで活動を紹介していますので、ぜひご覧ください。（下の二次元コードからお入りください。）

※現在、大学生（高校生も可）の新規メンバーを募集しています。



〈ビッキの会 Instagram〉

～子ども支援事業「夏休み子ども学習会」～

例年、社会教育青少年課では「夏休み子ども学習会」を実施しています。今年度は幅広い世代の学習サポートボランティアを募集し、8月7日（木）に実施しました。中央公民館に集まった小学生の学習をサポートするのは1人の中学生と2人の高校生、1人の地域住民です。

小学生は自分のペースで夏休みの宿題や自主学習に取り組みました。子どもたちの手が止まるとすぐにそばに寄って、「どんな学習しているの?」「何か困ったことはない?」と自然に声をかけ、子どもたちの話を聞きました。また、休憩時間には子どもたちと会話や工作、ゲームを楽しみました。

子どもたちにとって中学生や高校生などの若者たちは、自分の話を聞いてくれる、一緒に遊んでくれる、思いに寄り添ってくれる優しいお兄さんやお姉さんです。子どもたちは安心して学習に取り組むことができました。

～サードプレイス村、サードプレイス Jr. で活動する中学生の話～

空いている時間を人のために使いたいと思ってボランティアを始めました。「ありがとう」と言ってもらったときに、やってよかったと思います。自分の行動が誰かの楽しみにつながることにやりがいを感じます。

私は人と話すことが苦手でした。少しでも自分を変えたいと思い、ボランティアに応募しました。取組んでいるうちに、広い世代の人と接することや自分のできることが増えていくことがとても楽しく、嬉しくなりました。これからも地域貢献や自分の成長のために頑張っていきたいです。

人の輪に入ることが苦手な私に、ボランティア活動を通して何かのきっかけになればと、母に勧められて始めたところ、ボランティアの楽しさや嬉しさを感じるものがたくさんありました。小さい子どもや高齢者の方の笑顔がたくさん見ることができ、「ありがとう」という言葉をもらったときに自然と私の心も笑顔になります。

社教ニュースときたまごのバックナンバー及び山形市における「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」については、こちらからご覧ください。



web 版

社教ニュース

ときたまご



令和7年9月2日（第3号） 山形市教育委員会社会教育青少年課

夏休み中の子どもの学びの場づくり

約1か月間の夏休みの間、小中学生は家庭や地域など、社会の中で学ぶ機会が増えます。市内の公民館やコミュニティセンター等では様々な体験のプログラムを実施しています。また、学校の宿題や自主学習のサポートも行っています。

地域住民が子どもたちの学びを支える「地域の中の学びの場」を御紹介します。

～夏季休業中の学習会（山寺小中学校運営協議会）～

令和6年度から山寺小中学校の児童生徒を対象に、学校運営協議会が主催となって開催しています。今年度は夏休み中に4回開催しました。第1回の8月1日（金）、中学2年生と3年生の生徒が山寺コミュニティセンターに訪れ、およそ2時間、夏休みの学習や自主学習に取り組みました。

サポートするのは、山寺小中学校に勤務したことがある元教員、「山寺を愛する教師の会」の方々です。「当時、保護者や地域の方々にお世話になりました。本当に感謝しています。学習会は恩返しのつもりでやっています。」「子どもの成長を見ることが楽しみになっています。」「学校ではなく地域で行うことで先生方の負担減につながるのではないかと思います。」と話していました。「私たちは山寺の応援団」と言うメンバー全員が温かい目で子どもたちを見守っていました。

～夏休み寺子屋塾（江南公民館・退職公務員連盟）～

退職公務員連盟で15年ほど前から寺子屋塾を開催し、平成29年度から江南公民館との共催事業として長期休業中に開催しています。今回が39回目になります。市内から7名の元小学校の教員が参加し、子ども達の交流の場づくりと学習サポートを行いました。

「夏休みはどんなことをするの?」という問いかけに、ある女の子は「地域の夏祭りで太鼓の演奏をします。今練習をしています。」と話しました。

学習開始からおおよそ50分、ちょうど子どもたちに疲れが見え始めたタイミングで、折り紙や画用紙を使った工作タイム、「箱づくり」が始まりました。子どもたちは集中力を取り戻し、夢中になって取り組みました。

～2025 寺子屋塾（高瀬コミュニティセンター）～

コミュニティセンターの事業として昨年度から開催しています。今年度は8月12日（火）にたかせっこクラブ（放課後児童クラブ）を中心に22名の子どもたちが参加しました。サポートするのは地域に住む2名の元小学校の教員と2名の中学生ボランティア（第三中学校、高楯中学校）です。

前半は夏休みの宿題などに取組み、後半は、昨年から地域に住んでいるタイ出身の方との交流を楽しみました。子どもたちはタイ語のあいさつやじゃんけん挑戦し、タイのおやつを食べながらタイの暮らしについて学びました。

サポートとして参加した元小学校教員は「子どもたちが真剣に、集中して学習する様子に感心しました。外国人との接点が少ない高瀬地区の子どもたちが、身近なところで国際交流ができました。小学生と中学生の交流も大事にしていきたいです。」と話していました。

～夏休みコミセンで宿題をしよう（西山形コミュニティセンター）～

コミュニティセンターの事業として、夏休み中に2回開催しました。2回目の8月22日（金）は全校児童のおよそ6割の子どもが参加しました。とかみこどもクラブ（放課後児童クラブ）がコミュニティセンター内に設置されており、参加者のほとんどはクラブに在籍している子どもたちです。地域に住む元小学校の教員3名が宿題や自主学習をする子どもたちをサポートしました。

参加した5年生の女の子は「今まで何回も参加しています。先生の顔を覚えたので、地域で会ってもわかります。先生たちは優しいので質問しやすいです。教えてもらうとよくわかります。」と話していました。

もともと学習会はコミュニティセンターと地域住民によって行われていました。西山形小学校がコミュニティ・スクールになった現在は「地域学校協働活動」として実施しています。学校運営協議会等で学校と情報を共有しています。

このような取組によって、子どもたちはもちろん地域や学校にもよい効果が生まれることが期待できます。地域と学校が連携しながら、「学校を核とした地域づくり」を進めていただければと思っています。

社教ニュースときたまごのバックナンバー及び山形市における「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」については、こちらからご覧ください。



Web 版

社教ニュース

ときたまご



令和8年1月14日（第4号） 山形市教育委員会社会教育青少年課

学校運営協議会「熟議」の充実

学校運営協議会には「校長が作成する学校運営の基本方針を承認する」「学校運営について、教育委員会又は校長に対して意見を述べるができる」「教職員の任用に関して、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる」という3つの役割があります。

それとは別に、文部科学省では学校運営協議会に備えておくべきものの一つとして「熟議の場の設定」を示しています。

熟議とは…

よりよい集団（学校）生活や人間関係を築くために、協働して取り組む一連の自主的、実践的な活動を話し合いを重ねながら生み出そうというもの。

具体的には次のポイントを満たしたプロセスを指します。

1. 多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって、
2. 課題について学習・熟慮し、議論をすることにより、
3. 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
4. それぞれの役割に応じた解決策が洗練され、
5. 個々人が納得して自分の役割を果たすようになる

学校運営協議会設置の手引き（令和2年10月 文部科学省）より

熟議を充実するための各学校の取組を紹介します。

1 生徒の参加

学校運営協議会に生徒が参加することによって、より「多くの当事者が集まる」ことになり、その後のプロセスが充実することが期待できます。

第五中学校と高楯中学校では生徒会役員が熟議に参加し、第八中学校では生徒会役員との懇談の時間を設けました。蔵王第三小学校・蔵王第二中学校では、生徒がコンクールで受賞した作文を朗読しました。

生徒は「地域を大切にしようという気持ちが高まっている」「夢に向かってチャレンジしていく」「運動や折り紙などを通して地域の方と交流したい」「(中学生と大人の) 価値観の違いに驚いた」という思いを委員に伝えました。委員からは「みなさんのやりたいことを私たちに伝えてほしい」「児童・生徒の声を発信したい」「(学校行事等の参加について) 生徒会長も連名で地域に案内してはどうか」などの意見が述べられました。

生徒の思いや願いがどのように実現されていくのか、今後の展開が楽しみです。

2 教員や保護者の参加、テーマ設定、ファシリテーターの活用、時間設定

12月に行われた第一小学校の学校運営協議会では、委員の他に7人の教員と8人の保護者（奨学会役員）、さらに6人の大学生が加わり、『私たちの学校』と『私たちの地域』の未来を考えよう」というテーマで熟議が行われました。また、ファシリテーターは教員でも保護者でも地域住民でもない第三者に依頼しました。

委員以外の教職員や保護者、大学生が参加することで、より「多くの当事者が集まる」ことになり、多様な立場から意見が述べられるようになります。また、『私たちの学校』と『私たちの地域』の未来を考えよう」という、答えのない（一つの結論を求める必要がない）テーマを設定することで、一層「互いの立場や果たすべき役割への理解が深まる」ことと思います。さらに、第三者がファシリテーションすることによって、より「それぞれの役割に応じた解決策が洗練され、個々人が納得して自分の役割を果たすようになる」ことが期待できます。これらのプロセスを深めるために、熟議の時間を120分と設定しました。

これらの工夫により「よりよい集団（学校）生活や人間関係を築くために、協働して取り組む一連の自主的、実践的な活動を話し合いを重ねながら生み出す」熟議となったことを感じています。

市内小中学校の学校運営協議会や地域学校協働活動を参観、参加して学びを深めた、山形大学地域教育文化学部「地域学校協働インターンシップ」に参加する4年生の学生の声を紹介します。

- ・ 地域とのかかわりを考えていたり、大人にはない発想をしたりする子どもがいるので、（学校運営協議会に参加することで）大人の視野が広がり、新たな可能性が生まれるのではないかと。
- ・ 私たちは地域の方をリスペクトして、その意見を反映させていくことが大切だと思う。
- ・ 教員になって地域の方と一緒に学習する際は、子どものことはもちろん、地域づくりについても考えてみたい。
- ・ 地域学校協働活動が「単なる学校のお手伝い」にならないよう、地域のメリットを可視化し発信することが、活動の輪を広げるうえで重要であると感じた。
- ・ 学校を卒業すると地域とのつながりが希薄になる若者をどのように地域につないでいくか考えたい。

なお、第五中学校でも大学生も熟議に参加し、グループワークのファシリテーターを務めました。

社教ニュースときたまごのバックナンバー及び山形市における「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」については、こちらからご覧ください。



山形市PTA連合会 会報

じゅひょう



山形市PTA連合会ホームページ [ymgcity-pta.com](https://www.ymgcity-pta.com)

検索

第43号

令和7年12月発行

発行 山形市PTA連合会

会長 長谷川 吉之介

山形市十日町一丁目6番6号
(奥保健福祉センター内)

TEL 023-631-0055

FAX 023-635-4359



山形市立第十小学校PTA
(PTA行事 花笠祭り参加)



山形市立滝山小学校父母と教師の会
(ふれあい体験乗校)



山形市立村木沢小学校PTA
(4・5年生 地区振興会による地域学習)



山形市立高橋中学校PTA
(保体環境部主催 資源回収)

《令和7年度山形市PTA連合会スローガン》

『情熱を持って子供たちの未来のために 一歩を踏み出そう』

～かけがえのない時を子供たちの笑顔のために～

山形市PTA連合会HP:<https://www.ymgcity-pta.com>

第68回山形市PTA連合会研修大会から

「みんなが主役で応援団 ～可能性を広げるために～」



実行委員長 山形市立第八中学校PTA会長 菅原 宏之

令和7年7月6日(日)山形テルサを会場に、第68回山形市PTA連合会研修大会を開催いたしました。山形市内各小中学校のPTA会員の皆様方にご理解ご協力をいただき、開催できましたことを心より感謝申し上げます。

この度の研修大会は、第八中学校、西山形小学校、村木沢小学校、大曾根小学校の4校のPTAが、小規模校でも可能なこと、今後の山形市PTA連合会研修大会が持続可能になることを念頭に入れ準備を進めてきました。昨年度から幾度となく私たちも手探りの状況で打ち合わせを重ね、スムーズに研修大会が進む方策として、時間がかかることと混雑を避けるため、資料は各校で準備してもらい通過するだけの受付にしました。また、分科会は設けず、一つの会場で2つの講演会をするという今回のような大会内容となりました。

本研修大会は「みんなが主役で応援団～可能性を広げるために～」をテーマとして開催いたしました。参加者全員が共に学べる一つの会場での開催、ただ聴くだけでないワークショップなど新しい形を取り入れました。併せてDX活用などによるコスト低減にも配慮いたしました。このような参加型の講演会をすることができ、お陰様でたくさんのご好評を頂くことができました。改めて研修大会の意義を噛み締めております。

子供たちを取り巻く環境は現在、高齢化・人口の減少・少子化・情報化など急激に変化しています。このような環境の変化に家庭・学校・地域の連携は必要不可欠です。大会の第1部では、実際に地域の子供たちが家庭や地域に対して感じていることや将来のことなどを話している動画を見ながら進められました。動画では、子供たちの素直な思いや地域や家庭に対して深く考えていることも分かりました。子供たちにとって、うれしかったこと・自信につながったこと・やりたいこと・いやだったことなど、子供と対話する大切さについてお話していただきました。第2部では、声かけの仕方として、否定的な言葉を避けてポジティブな言葉に言い換えるペップトーク(お互いに声かけし合う体験)を実際にしてもらいました。そして子供たちのやる気を引き出し、勇気付けるトークで励まし、子供たちをその気にさせるやり方をお話いただきました。2つの研修を通して、子供への声かけの仕方やコミュニケーションの大切さなどを感じていただけのではないのでしょうか。今回の研修大会で得られた学びが、子供たちが明るく生きる強い力を得て、それぞれの道や方法で社会に羽ばたくこと、幸せな未来を作るための一助となることができれば幸いです。

最後になりますが、研修大会の開催にあたり、ご指導ご協力を頂きました関係各位の皆様、山形市PTA連合会の皆様、ご講演いただきました鈴木貴子先生、小野弘志先生、ご参加いただきました保護者の皆様、企画・運営に携わった第八ブロックのメンバーに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



第1部：講演

『未来を創る力 ～子供の無限の可能性を解き放つ～』

◆ 講師 / 鈴木 貴子 氏 (山形市立蔵王第二中学校教頭(前 山形大学大学院准教授))

子供たちは、地域にどんな思いを持ち、夢や希望を抱きながら生活しているのか。また地域の方々は、どんな思いで子供たちと関わっているのか。それらの思いを肌で感じてもらいながら保護者・家庭が大事にしたいことを会場の皆さんと共有し、子供の可能性について探りました。



ポイント

子供はみんなそれぞれ違った個性と才能を持っている。その無限の可能性を信じ、自分らしく成長できる環境を創ることが重要である。目標達成が目標ではなく、達成できなくても、自分に足りないものを知って新たな目標を立てることが大切である。そのためには、メタ認知を習慣化することが大切。子供だけが頑張るのではなく、大人も一緒に楽しむ。

<大会アンケートから>

- ・子供たちへのインタビューがすごく印象的で、気付かされる部分がありました。
- ・親のエゴを押し付けず、子供を認めていきたいと思いました。
- ・子供との時間がなかなか作れていなくて、コミュニケーションをじっくりと図る時間が取れてなかったなと感じた。子供の言葉を素直に受け止め関わってあげたい。

第2部：ワークショップ

『子供の主体性を引き出す言葉の力 ～ペップトーク～』

◆ 講師 / 小野 弘志 氏 (一般財団法人日本ペップトーク普及協会認定講師)

親ならば誰も自分の子供には、他の人と比べることなく、自分のよさを伸ばして前向きに生きてほしいと願うものです。全ての子供たちが自信をもって幸せに生きることができるよう、みんなで子供の心に響く励まし言葉のかけ方について考え、体験してみました。



ポイント

ペップトークで大切なことは「元気」「勇気」「活気」。ペップトークは、ポジティブな言葉で相手の価値や可能性に焦点を当て、自己肯定感を高め、やる気を引き出すもの。

<大会アンケートから>

- ・子供の元気とやる気を促す言葉の大事さに気がきました。
- ・子供に対してばかり頭にあったが、まずは自分を肯定することが一番大事なのだと気付かされた。
- ・今からすぐ実践できそうなテーマで、帰ったら子供にペップトークしてみようと思いました。



『情熱を持って子供たちの未来のために 一步を踏み出そう』

～かけがえのない時を子供たちの笑顔のために～

山形市PTA連合会会長 長谷川吉之介



山形市PTA連合会は『情熱を持って子供たちの未来のため 一步を踏み出そう』～かけがえのない時を子供たちの笑顔のために～のスローガンのもと活動を展開してまいりました。子供たちを取り巻く環境は目まぐるしく変遷しております。そのような状況の中、変化の波を恐れず乗り越え、遅く対応していく力が今の子供たちには求められています。そのためにも私たちPTAは、子供たちの成長にとって真に必要な組織であり続けなければなりません。過去の足跡を深く理解し、来るべき未来を見据えながらPTAの役割を改めて認識し、主体的な行動を起こさねばなりません。

令和7年7月6日に、「みんなが主役で応援団 ～可能性を広げるために～」をテーマに、第68回市P連研修大会を開催しました。本大会は小規模校でも可能なこと、山形市PTA連合会研修大会が持続可能になることを念頭に置いて進めていただきました。担当ブロックPTAのカラーを生かした内容で、学びや気付きの多い大会でした。令和7年6月27日(水)、市P連第1回小中学校部会を行いました。令和8年度県立高校入学生から新しい入学者選抜制度が始まります。また、令和8年度から山形市内中学校の休日の部活動環境が変わります。この大きな変化を各校のPTA会長から理解していただくことを目的に開催しました。令和7年9月26日(金)に、市P連教育懇談会を行いました。テーマは「ICT教育の推進・ICT教育環境の整備～未来を生きる山形の子供たちに不可欠な力の育成～」で、実際にタブレット端末を使用してみる「体験型」の教育懇談会を実施しました。

山形市PTA連合会はあらゆる変化に対応しながら、山形のアツク子供たちの健全な成長と幸福を願い、これからも、大きく変化する教育環境に、親としてPTAとして出来ることを求めていきたいと考えています。



「子供たちの成長を支える教育の充実に向けて」

山形市教育委員会教育長 金沢智也



山形市PTA連合会並びに各単位PTA、そして、会員の保護者の皆様には、日頃より山形市の教育の充実と発展にご支援とご協力を賜り誠にありがとうございます。また、子供たちの豊かな成長と健全育成にご尽力を賜り心より感謝を申し上げます。

さて、山形市教育委員会は、「郷土を誇りに思い いのちが輝く 人づくり」を基本理念とし、子供・家庭・地域・学校の深い「信頼」関係を土台とした、「感動」を生み出す教育、「感謝」の念を育む教育を目指し、学校教育を進めております。

情報化社会の進展や教員の働き方改革などを筆頭に、学校教育を取り巻く環境が激しく変化している中、「情報活用能力」は未来を生き抜く子供たちが今身につけるべき必要不可欠な能力の一つであります。山形市では、教育のICT環境を更に充実させるため、令和3年度から導入している1人1台のタブレット端末について、より高性能・高機能なものへの更新を進めています。更には、授業支援ソフトやデジタル学習ドリル等も活用し、様々な課題に関心を高め、主体的・対話的に生き生きと子供たちが学び合える環境づくりを積極的に推進しております。また、部活動の地域展開につきましては、来年度から「休日の部活動」を「地域クラブ活動」への転換を目指し、教育委員会と文化スポーツ部が連携し進めております。生徒のニーズに応じた多様で豊かな体験機会の確保、地域におけるスポーツや文化芸術の振興と発展に繋がるよう、関係団体と連携し更に良いものとなるよう努力して参ります。

結びになりますが、山形市PTA連合会及び保護者の皆様方と今後とも連携・協力を図るとともに、教育の内容や環境の更なる充実に取り組んで参りたいと思いますので、ご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

令和7年度山形市PTA連合会 第1回小中学校部会

山形市PTA連合会小中学校部会長 佐々木悟史

令和7年6月27日(水)、山形県生涯学習センター「遊学館」で市P連第1回小中学校部会を行いました。令和8年度県立高校入学生から新しい入学者選抜制度が始まります。山形県教育委員会では、県立高校の魅力発信や入学者選抜情報の周知を図るため、「県立高校出前講座及び県立高校ポータルサイト」を立ち上げました。また、令和8年度から山形市内中学校の休日の部活動環境が変わります。この大きな変化を各校のPTA会長から理解していただくことを目的に開催しました。

研修1 「山形市における部活動の 地域移行・地域連携について」

- ★山形市の基本的な方向性、部活動から地域クラブ活動へ、想定される地域クラブ等のイメージについて

山形市文化スポーツ部部活動地域移行連携室
コーディネーター 佐藤雄一氏



研修2 「県立高校を知ろう」

- ★令和8年度入学生からの新しい入学者選抜制度、高校卒業後の進路等、高校の学科とその内容、高校選びや高校生活・中学校との違いについて

山形県教育局高校教育課課長補佐 黒沼直洋氏
山形県教育局高校未来創造室室長補佐 庄司洋一氏



【出席者の感想より】

- 部活動について多様なあり方が想定されており、実際どのようになるのかまだ想像が付きません。さまざまな課題もあると思いますが、各地域の実情に沿って子供の居場所や活動が保証され、かつ教員の働き方改革につながるようにと願っています。
- 部活動についての質問に具体的に回答いただき、大変分かりやすかったです。部活動については、したくても学校にないスポーツや文化活動を選べなかった生徒はこれまでたくさんいたかと思います。自分の興味・関心に合わせて活動ができる環境が整うのであれば、生徒の可能性も広がると思いました。
- 高校入試制度が変わることがよくわかりました。高校を選択する際には、情報を集めることや本人の意向を確認することを大切にしたいと思います。
- 県立高校入学にあたり、本人・保護者の意向意見とお互いの話が必要だと感じました。片方の考えではなくいろいろ話をし、学校を理解することが大事だと思えました。



講師をお勤めいただいた皆様、ご参加いただいた各小中学校のPTA役員の皆様、本当にありがとうございました。今後とも引き続き、山形市PTA連合会に対しまして、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

実践 報告

『情熱を持って子供たちの ～かけがえのない時を子』

地域とともにあゆむ

山形市立第十小学校PTA会長 山手 淳志

創立61周年を迎えた山形市立第十小学校は、山形駅西地区に位置し、学区内には交通の要衝である山形駅や商業地を抱える学校で、今年度は395名の児童が登校しています。本校は昭和39年に飯塚小学校、樫沢小学校、第一小学校の学区を変更して開校。校章のクローバーは三地域が心一つにしてすばらしい学校を築いていこうとする意欲を表しております。

さて、私たちPTAでは子供たちの豊かな学びや健やかな成長を願い、学校・家庭・地域のみなさまと連携しながら『しなやかな心とたくましい実践力をもち、徳・知・体の調和のとれた児童の育成』を学校目標に、その手助けとなるような活動を進めております。

一昨年より保護者スポーツ交流会(ビーチバレーボール大会)を再開、継続して花笠まつりへの参加も行っております。創立60周年を迎えた昨年、地域の皆様にも協力頂き『クローバー祭』というイベントも再開、子供たちと先生方・保護者が笑顔いっぱい交流しております。また、母親委員会では体育着リサイクルなどの活動にも取り組んでいます。

昨今、PTA活動の是非について様々な議論があることも承知しておりますが、保護者の役員選出の負担や教職員の働き方改革も考慮した、持続可能なPTA活動の構築を目指していきたいと考えております。最後になりますが、今後も学校と地域との関わりを大切にして、子供たちのための行動を続けていけるように努めてまいります。

変革を望むことから進歩が生まれる

山形市立滝山小学校父母と教師の会会長 荒井 義貴

滝山小は、令和7年10月1日、創立135周年を迎えました。記念式のオープニングでは、昔から受け継がれている龍山太鼓の重厚感のある音、フィナーレでは、今や全国大会常連校となったブラスバンド部の軽快なリズムが披露され、滝小ならではの立派な式典となりました。

今年度、父母と教師の会の活動として、大幅な規約改訂に取り組んでいます。児童数約640名・家庭数550世帯に対し、役員数が120名と家庭数の約1/5が役員に選出されており、家庭数に対する役員数の割合が高くなっています。これは、児童数900名在籍していた時代から変わっておらず、6年間で何回も役員を引き受けなければならない現状でした。始めに取り組んだのは、全保護者に対するアンケート調査の実施です。父母と教師の会の必要性から各専門部に対することなど率直な意見を出してもらえました。

持続可能な取り組みをするため、全体を通してスリム化を図る結論となりました。活動内容を見直す中で校内と校外に分けて考え、二つの専門部を統合しスリム化を図りました。正式な承認は、来年度の総会にて決まりますが、この案が通れば、専門部の数が2つ減り3つとなり、役員数も120名から約60名となります。変わることは、色々と障害がありますが、先を見据えての取組みを今後もして、より良い活動にしていきたいと思っております。

未来のために 一歩を踏み出そう』

供たちの笑顔のために～

大人も主役、子供と一緒に楽しみたい

山形市立村木沢小学校PTA会長 長澤 愛

児童数の減少に伴い保護者や教員の数も減り、ますますPTA活動の負担感が増してきています。学校運営や行事等に追われ、大変そうな大人の姿を子供たちはどんな思いで見ているのでしょうか。

今年度の村木沢小PTAでは、子供や保護者が楽しめる活動に注力する方針とし、育成会や振興会行事などと連動しながら学校や地域のご協力の下、親子サイエンス教室や夏休みの居場所づくり、八中生との夏祭り、地区ボーリング大会への参加などを行っています。また、伝統の米作り指導をはじめ、保護者協力が困難になった交通安全教室での見守りを依頼したり、子供たちの声「地域に友達と過ごせる場所が欲しい」といったアンケート結果を届けたりと、振興会や地域の方々へのお願いも含めた日頃からの交流や緩やかなつながりが、PTA活動や子供の育ちにとって良い循環になっていると実感しています。もちろん、PTAの負担が全くなくなるわけではありませんが、「やりたい」が「大変」に勝るかどうかもポイントです。子供たちが身近な地域課題に触れられるなど、小規模校・顔の見える地域ならではの豊かな資源と環境を活かし、子供をまんやかに保護者や学校、地域の願いを叶えられるような活動につなげていきたいです。

今後、山形市では小中学校の統廃合は行わず、学校施設の複合化を図っていくようです。放課後の居場所となる児童館や相互交流もできる老人福祉施設、スポーツクラブの入る社会体育施設が部活動や授業を担うといった複合化事例もあり、これからの学校づくりはわくわくする地域づくりと言えるかもしれません。ここ山形を楽しむ大人の姿を子供たちに見せていきたい、PTA活動もその一つになればと願っています。

地域と共に歩むPTA活動

山形市立高橋中学校PTA会長 蜂谷 靖

高橋中学校は山形市北部に位置し、高瀬地区と楯山地区の豊かな風土と文化に支えられ地域とともにある学校として、今年の5月1日で創立73周年を迎える事ができました。本校の教育目標は「ふるさとを愛し、未来に向かって明るくたくましく生きる情操豊かな生徒の育成」です。校章は郷土の川である高瀬川の河畔に咲くカワラナデシコをデザインし、五弁の花びらには、真理・自主・健康・友情・勤労という学校教育目標の願いが込められています。

今年度の生徒数は、129名と市内でも生徒数の少ない小規模な中学校にはなりますが、保護者である全PTA会員は各専門部に所属していただき様々な行事で協力してもらい活動しています。研修広報部・保体環境部・生活指導部・母親委員会と四つの専門部があり、各部長が中心となり活動しています。研修広報部は年2回のPTA会報誌の発行を行っています。保体環境部はPTA球技大会・資源回収・校内環境整備の企画運営を行っています。生活指導部は年3回登下校時の立哨指導を行っています。母親委員会は不要になった制服や運動着などリサイクル品を回収し、お譲り会を開催しています。生徒たちもPTA活動である資源回収や学校のワックス塗布などの参加、また、地域行事準備のボランティア活動や行事への参加と積極的に地域行事にも関わっている学校です。

来年度から施行される部活動地域展開では、一昨年からモデル校として活動を行ってきました、生徒数の減少に伴い部活動も減少している中、部活動改革推進委員会を立ち上げ、様々な課題がある中、保護者の方々の理解を得ながら進めているところです。これからも保護者だけでなく地域の方々の力もお借りして、未来ある子供たちの為に持続可能なPTAを目指して活動していきたいと思えます。

令和7年度山形市PTA連合会教育懇談会 —— 報 告 ——

山形市PTA連合会研修委員長 伊藤 健二

テーマ：「ICT教育の推進・ICT教育環境の整備 ～未来を生きる山形の子供たちに不可欠な力の育成～」

令和7年9月26日(金)、山形市PTA連合会教育懇談会を実施しました。当日は、金沢教育長をはじめ市教育委員会の皆様、各学校のPTA会長、市P連母親委員会運営委員の皆様よりご参加をいただきました。

山形市教育振興基本計画の見直しの趣旨に、「個別施策においては、ICT教育環境の整備が未来を生きる山形の子供たちに不可欠な力の育成につながるものとして強く推進します」とあり、未来を生きる子供たちにはICT教育の推進及び環境整備は大きなカギとなることから、山形市の現在のICT教育を知り、そして、実際にタブレット端末を使用してみる「体験型」の教育懇談会を開催させていただくことになりました。

第一部 「山形市のICT教育の推進・ICT環境整備」について

山形市総合学習センター副所長(兼)主任指導主事 山川直樹氏

研修2 「山形市のICT教育の実際」について

山形市総合学習センター指導主事 小川健吾氏

【出席者の感想より】

- 自分たちの時代とは全く異なることが分かり、大変驚きました。そして、山形市が教育にとっても力を入れてくださっていることを知り、大変ありがたいと思います。ウェルビーイングを忘れてしまいがちですが、時折思い出して心に留めていきたいと思えます。
- インターネットには良いイメージがなく、ICT教育に不安もありました。今日の話聞いて、これから社会に出て活躍するためには上手にAIを活用していく力が必要だと感じました。ICT教育の重要性について理解できてよかったです。
- 大変興味深いお話ありがとうございました。新しいICTというツールを正しく安全に使う世代を育てる教育が変わっているのだと感じました。もしかして変わらなければいけないのは親・大人側なのかもしれません。

講師をお勤めいただいた山形市総合学習センターの皆様、そして長時間に渡りご参加いただいた各小中学校のPTA役員の皆様、本当にありがとうございました。



いのちの大切さ学習会

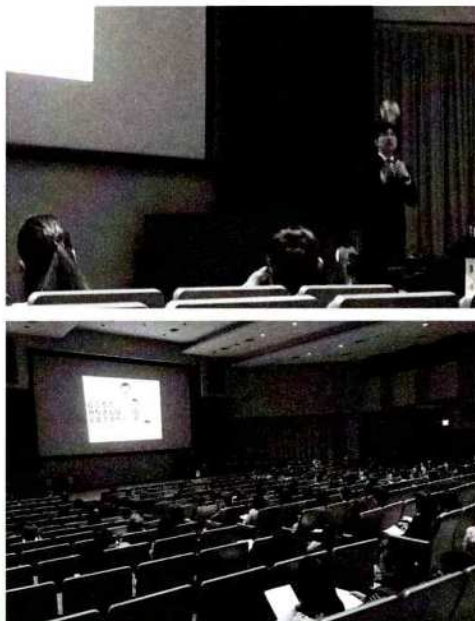
いのちの大切さ学習会・拡大母親委員会に参加して

山形市立第六小学校PTA会長 須貝 忠 繁

山形市PTA連合会主催の「いのちの大切さ学習会」・拡大母親委員会が令和7年11月8日、山形国際交流プラザ(ビッグウイング)に於いて開催されました。講師は山形県立保健医療大学教授看護学科長の安保寛明氏です。「子どもと大人が前向きに暮らすためにできること～SOSの出し方講座の取り組みから～」をテーマにした講演でした。

今回の学習会では、「子供も大人も一人で抱え込まず、話しやすい環境をつくることの大切さ」を改めて感じ、子供も大人も無理をしないで助けを求めることが大切だと気がきました。特に、「SOSを出すことは弱さではなく、自分を守るための力」という言葉が印象に残りました。大人が日頃から子供の小さなサインに気づき、安心して話せる関係をつくるのが、SOSを出しやすくする第一歩だと思いました。

家庭や地域で「話を聞く姿勢」を大切にしながら、子供も大人も前向きに暮らしていけたらと思います。



第77回山形県PTA研修大会新庄・最上大会から

山形市立金井中学校PTA会長 船渡利恵子

令和7年10月18日(土)、第77回山形県PTA研修大会新庄・最上大会が開催されました。大会主題は「ウェルビーイング～子ども・家庭・地域のしあわせのために大人が変わる」で、基調講演のあと分科会が開催されました。

基調講演はトーキョーコーヒー代表の吉田田タカシ氏で、演題は「子どもの邪魔をしない教育と、次の社会のためのヒント集」です。吉田田タカシ氏は、「まほうの다가しやチロル堂」の共同代表としてグッドデザインアワード大賞を受賞しました。また、教育や社会問題に取り組む「トーキョーコーヒー」を全国約400拠点で展開しています。「子どもの主体性を尊重し、大人自身もアップデートしていくことの大切さ」をユーモアと実例を交えた内容で、講演の素晴らしさに引き込まれ、時間が短く感じられました。分科会は【家庭におけるウェルビーイング】【学校におけるウェルビーイング】

【地域におけるウェルビーイング】で、講演の後、他地区PTA会員との意見交流があり、県内PTA会員と学びあうことができました。



第57回日本PTA東北ブロック研修大会 仙台大会に参加して

山形市立山寺小中学校PTA会長 後藤 恵理

令和7年9月13日・14日に第57回日本PTA東北ブロック研修大会仙台大会に参加してきました。大会テーマは「仙台で織りなす『未来』～居場所を創るSDGsプロジェクト～」で、子供たちが安心して自分らしく成長できる“居場所”を家庭・学校・地域がどう連携して築いていくかを考える学びと気づきに満ちた時間となりました。

初日、私の参加した第3分科会は、「地域で共に育む子供たち～地域に住みながら世界とも勝負できる人間を育てる～」が研究課題でした。パネリストの方々の地域の力を活かした取り組みや、教育のあり方について広く学ぶことができました。また、地域全体が学びのフィールドとなり、大人が関わり合いながら子供を育てていくことの大切さを改めて感じました。2日目の記念講演・ディスカッションでは、東北大学の細田千尋准教授より「脳の発達から考える教育と子供のウェルビーイング～自分で未来を切り開く力を育む～」をテーマに、最新の脳科学の知見をもとに子供たちが主体的に学び、成長していくための教育のヒントやあり方を深く学ぶことができました。今回の貴重な学びと感謝を胸に、これからも、家庭・学校・地域が連携し、子供たちの未来を共に創造していくことの大切さを再認識しました。



日本PTA全国研究大会石川大会から

山形市PTA 連合会研修委員長 伊藤 健二

8月22日・23日に「第73回日本PTA全国研究大会石川大会」が開催され、全国より延べ5,000名の参加者が集まりました。県内から22名(山形市から6名)の会員が参加しました。大会スローガンは「『サステナブルな未来づくりのために』～創造と協働を石川から～」でした。8月22日(金)は8つの会場で、学校での子供の学び方、家庭での保護者の子供に対する接し方、人権に対する意識向上、防災教育・地域連携、求められるPTA活動等を取り上げた各分科会でした。

23日(土)は石川県立音楽堂コンサートホールをメイン会場とし、インターネット回線で8つの会場を結んでオンラインで全体会が開催されました。記念講演は石川県副知事の浅野大介氏で、テーマは「能登の創造的復興と学びの環境～学習環境の魅力化あってこそその復興～」でした。浅野氏が2019年当時、経産省の立場から文科省とともに「GIGAスクール」を推進した頃に構想した「未来の教室」の姿、本当に変わり始めた学校の今、そして教育環境の魅力化が人口流出を止め、新たな人口流入をもたらす事例など全国各地の小さな町で進む教育環境魅力化の話があり、示唆に富んだお話をいただきました。



令和8年度「第78回山形県PTA研修大会山形大会」について

山形市PTA連合会会長 長谷川吉之介

先般開催されました「第77回山形県PTA研修大会新庄・最上大会」におきましては、「ウェルビーイング」という今を生きる私たちに深く関わるテーマについて、県内PTAの皆様と活発な学び合いができたことに心より感謝申し上げます。

さて、この熱い学びのバトンを受け継ぎ、いよいよ来年は、私たち山形市PTA連合会が主管となり、令和8年10月17日(土)山形テルサを会場に、「第78回山形県PTA研修大会山形大会」を開催いたします。新庄・最上大会で探求した「ウェルビーイング」の先に、私たち山形市PTA連合会は、何よりも大切に活動の根源となる「いのち」を大きな柱として大会を構築したいと考えております。「いのち輝く子供たち」を育成するためには、私たち一人ひとりが「自分事」として捉え、それぞれの立場で、情熱を持って一步を踏み出すことが不可欠です。その熱意を高めるために、基調講演には、薬師寺副住職 大谷徹瑛(おおたに てつじょう)様をお迎えいたします。1300年の歴史を誇る古都・奈良の薬師寺の要として、全国で「いのち」の尊さについて熱く語り続けていらっしゃる大谷様のメッセージは、きっと皆様の胸を熱く打つことでしょう。基調講演に続き、皆様の地域や課題に寄り添う分科会も充実させてまいります。

次なる一步を踏み出すために、この山形大会を、「県内PTAの情熱と知恵を結集する最高の場としたい！」それが私たちの熱い思いです。「いのち輝く未来」を共に創るため、会員の皆様お一人おひとりのご参加が、私たちの推進力となります。どうか、令和8年10月17日、山形テルサにお集まりいただき、共に未来への確かな一步を踏み出しましょう！皆様の積極的なご参会を心よりお待ちしております。



令和7年度 山形市PTA連合会 母親委員会 活動報告

山形市PTA連合会 母親委員長 渡邊さおり

テーマ:「いのちの尊さ大切さ」～笑顔でつなぐみんなの心～

○定例母親委員会

- ・第1回母親委員会(5/12)……今年度の活動計画・情報交換
- ・第2回母親委員会(6/23)……ワールドカフェ
- ・第3回母親委員会(2/中旬)……今年度の活動反省・情報交換会

○拡大母親委員会(11/8)

講演:「子どもと大人が前向きに暮らすためにできること
—SOSの出し方講座の取り組みから—」

講師: 安保 寛明 氏(山形県立保健医療大学 教授 看護学科長)

○[親学]家庭教育視察研修(11/17)

「山形広域炊飯施設・山形市学校給食センター」と「子育て支援 ほほえみ食堂」

○母親委員会だより「マザーズねっとわーく」No.30(3月発行)



日頃より母親委員会の活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。今年度は「いのちの尊さ大切さ」～笑顔でつなぐみんなの心～をテーマに掲げ、活動してまいりました。このテーマには、私たち一人ひとりが持つ命の尊さを再確認し、子供たちと共に笑顔で過ごせるような家庭や学校の環境を築いていきたい、という思いが込められています。

母親委員会は、子供たちの様子や子育ての悩み、各学校の活動や新たな取り組みなどについて話し合える貴重な場です。委員会で出されたご意見を集約し、子供たちの健やかな成長に向けたより良い家庭教育を目指し、必要な研修や活動に反映してまいりました。現代のSNS社会によって日々変化する子育て環境に対応し、大切な子供たちの命を守り、みんなが笑顔で過ごせるよう、これからも皆さんと一緒に学んでまいります。

晴れの受賞おめでとうございます

☆日本PTA会長表彰

(山形市PTA関係、敬称略)

(団体) ・山形市立大郷小学校PTA (個人) ・高橋あゆみ(山形県P連前母親委員長)

☆東北ブロックPTA協議会会長表彰

(感謝状) ・武田靖裕(山形県P連前会長) (団体) ・山形市立第七中学校PTA

☆山形県PTA連合会会長表彰

(感謝状) ・武田 靖裕 (山形県P連前会長) ・高橋あゆみ (山形県P連前母親委員長)
 ・森本 真紀 (山形県P連前理事)
 (表彰状) ・松井 愛 (山形市P連前副会長) ・安達 和弘 (山形市P連前副会長)
 ・國分 亮 (山形市P連研修大会前実行委員長)

☆広報紙コンクール山形県PTA会長賞

・山形市立第六中学校PTA「龍山だより」

☆山形市PTA連合会会長表彰(感謝状)

(感謝状) ・武田 靖裕 (前会長、四中) ・山崎 篤史 (前理事、南山形小)
 ・松井 愛 (前副会長、大郷小) ・塚 真一 (前理事、金井小)
 ・安達 和弘 (前副会長、村木沢小) ・柴田 賢一 (前理事、六中)
 ・沼澤 聡 (前副会長、南山形小) ・池田 英明 (前理事、一中)
 ・佐藤 朋子 (前副会長、五中) ・金澤 忠治 (前理事、十中)
 ・荒井 信子 (前理事、九小) ・吉村 和武 (前理事、附属中)
 ・行方 梨沙 (前理事、宮浦小) ・高橋あゆみ (前理事、一中)
 ・武田 信之 (前理事、二小) ・安孫子健治 (前監事、高瀬小)
 ・安達 栄治 (前理事、千歳小) ・中根 年勝 (前監事、蔵王二小)

令和7年度 山形市PTA連合会役員名簿

役職名	氏名	所属PTA	役職名	氏名	所属PTA
会長	長谷川吉之介	附属中	理事	中村 祥之	附属中
副会長	伊藤 健二	九小	理事	佐藤 芳彦	二中
副会長	渡辺 彰	九中	理事	伊藤 公人	五中
副会長	東海 林仁	南沼原小	理事	笹原 宏之	八中
副会長(T)	遠藤 克裕	南山形小	理事	船渡利恵子	金井中
副会長(T)	高橋 修	十中	理事	渡邊さおり	金井中
理事	佐々木悟史	五小	監事	半田 朋弥	蔵一小
理事	山手 淳志	十小	監事	後藤 恵理	山寺小中
理事	佐藤 真也	出羽小	事務局長	大江 昌信	
理事	古瀬 修	東小	事務局員	高見 佳澄	
理事	須貝 忠繁	六小	事務局員	佐藤 静子	

編集後記 「学びの一年」

今号では、私たちが一年間活動する中で考え学んできたことや、単位PTAの活動に役立つ情報をお届けしました。教育懇談会ではICT授業を体験し、子供たちがタブレットを使って楽しそうに学ぶ姿に、新しい時代の学びの広がりを感じました。残念ながら、ソフトボール大会は雨のため中止となってしまいましたが、次の機会に笑顔あふれる時間を過ごせたらと思います。今年度も講演会や研修・情報交換など、さまざまな活動を通じて多くの学びがありました。その一つひとつが、子供たちの笑顔につながっていると信じています。子供たちのために、そして自分たちのためにも楽しみながら活動を続けていけたらと思います。今後とも皆様のご協力をよろしく願いたします。みんなで支え合いながら「持続可能なPTA」を目指していきましょう。原稿・写真をご協力頂きました皆様ありがとうございました。(広報委員長 渡辺 彰)



第53号

2025.10月発行

〈発行〉
山形市子ども会
育成連合会

〈事務局〉
〒990-0047
山形市旅籠町2-3-25
山形市教育委員会 会
社会教育青少年課内
編集／文化部
印刷／(株)大風印刷



山形市子ども会育成連合会 会長 前田 浩一



日頃より皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は子ども会活動にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、私こと、このたび定時総会決議により、前会長佐藤博之様の後任として、令和七年五月から山形市子ども会育成連合会会長に就任しました。

子ども会は、異年齢の子ども達が、地域の中で多様な体験をし、自主的活動を通じて社会性、知的能力、情操、体力、創造性などを育む重要な場です。互いが触れ合い、体験を共有しなければ、活動は成り立ちません。

コロナ禍では、その「触れ合い」が大幅に制限されました。大人の場合は、在宅ワークやウェブ会議など、仕事や生活のスタイルを大きく変えることでコロナ禍を切り抜け、今に至っています。何もかも以前の交流スタイルに戻ることはもうないでしょう。

子ども会活動も、コロナ前に戻るのではなく、新しい方

向を考えなくてはならない時期にきています。しかし、子どもの成長に必要なものが「触れ合い」であることに変わりはありません。ネット社会の中で、どうすれば子ども達に「地域の中での触れ合い」と「体験共有」の場を提供できるか、その工夫が求められています。

子ども会は、私たち親にとっても子育ての悩みを相談し合う場、子育ての知恵を授かる場、生活の情報を交換する場になります。親同士の交流の場、学びの場になることによつて親にとっても魅力ある活動になる力を秘めています。以上のように、子ども会を通して子ども達が地域の大人たちと交流を持つことによつて、地域の活力が生まれ、高まります。地域の大人達が、地域の子ども達に関心を持つことによつて、地域の安全も生まれます。私たちが顔を合わせ交流することで、子ども会の新しい方向性や可能性も開けて来ると思っています。

諸先輩方や会員皆様からのご指導ご鞭撻を賜りながら、会長職を務めて参りたいと思っておりますので、宜しくお願致します。

令和7年度 事業内容

5月	令和7年度定期総会 育成功労者表彰式(17日) 合同専門部会(27日) 令和7年度県子連定例総会(24日)
6月	第1回幹事会(14日) 第1回常任委員会(23日)
7月	県リーダー研修会(26~27日) 東北地区ジュニアリーダー大会(1~3日)
8月	県子連理事会
9月	リーダー研修会・秋の自然体験(4~5日) 第2回幹事会(21日) 安全啓発初級フアシリテーター養成講習会
11月	「かがやく瞳」第53号発行 東北地区子ども会育成研究協議会山形大会(1~2日) 山形市子ども会育成連合会夏の競技大会 (第9回かけっこリレー・駅伝大会29日) 全子連中央会議・研究大会(15~16日)
12月	中間監査・第3回幹事会
1月	第2回常任委員会・新年会
2月	県リーダー研修会 KTY研修会・安全共済説明会 県子連理事会
3月	第3回山形市子ども会七ルック大会(22日)
4月	「かがやく瞳」第54号発行 第4回幹事会 期末監査・第3回常任委員会



今も記憶に残る、 子ども会活動での貴重な体験

山形市教育委員会 社会教育青少年課長 阿部 宏

皆さんはじめまして。私は、4月に社会教育青少年課長となりました阿部宏と申します。

はじめに、山形市子ども会育成連合会（市子連）の皆様におかれましては、日頃より、子どもたちの健やかな成長につながる様々な活動に取り組んでおられることに、心より感謝を申し上げます。

また5月に勇退されました佐藤前会長には、長年にわたり子どもたちの健全育成、及び子ども会活動の発展のために御尽力いただきましたことに、心からの敬意と労いを申し上げます。前田新会長におかれましても、引き続き、よろしく願いいたします。

さて話は変わりますが、私は小学校高学年の頃、町内会の子ども会活動で夏休みに行った蔵王への登山が今でも記憶に残っています。「あかつき登山」と言って真夜中（午前3時頃）にバスで出発し、蔵王では夜明け前に登山を開始して山頂付近で日の出を見る、という活動でした。当時は子どもも保護者も大勢参加して、大型バスは補助椅子まで使って満席でした。私は5・6年の2回参加しましたが、1回は雨、もう1回も曇りで、綺麗な日の出は見られませんでした。その後、みんなで下山して、温泉旅館の大広間で、おにぎりを食べたりジュースを飲んだりしてお昼頃まで休憩を取りました。休憩時には、（保護者の発案で）子どもたちが全員の前で（強制的に）1曲歌わせられました。でもこうしたことがきっかけで、クラスや学年の違う子たちとも自然に仲良くなり、出発から帰りのバスが集合場所に到着するまで「ずっと楽しかった」という記憶だけが残りました。それから50年近く経った今も覚えているということは、当時の私には、とてもインパクトのある、貴重な体験だったのだと思います。保護者の方々に感謝ですね！

私が子どもの頃に比べると、現在の子ども会活動は本当に大変だと思います。単に少子化ということだけでなく、親御さんも様々な理由で、なかなか子ども会活動への参加が難しい、という方が増えているのではないのでしょうか。（かく言う私も、日々の生活に追われ、親としての子ども会活動への参加には極めて消極的でありました……）このような中にあっても、子どもたちのために懸命に取り組んでいただいている保護者の皆様方には、本当に頭の下がる思いです。市子連、並びに保護者の皆様方、これからも、子どもたちの記憶にいつまでも残るような素晴らしい活動を期待しております！

山形市子ども会
育成連合会 **【総会報告】**

日時：令和七年五月十七日（土）
場所：山形テルサ大会議室

令和七年度山形市子ども会育成連合会の総会を五月十七日（土）、山形テルサ大会議室において開催しました。

ご来賓の方々を代表し、山形市長 佐藤孝弘様よりご祝辞をいただきました。

議事では、令和六年度の事業報告および令和七年度の事業計画等の説明があり、議案についてはすべて承認されました。

総会に引き続き、育成功労者の表彰があり、次の個人が表彰されました。

【山形市長感謝状】

・山形市子ども会育成連合会

会長 佐藤 博之

【令和六年度功労者の部（三名）】

・第十学区 レクリエーション安全部

部長 川元清一郎

・出羽学区 リーダー研修部

部長 長内 幸樹

・南沼原学区 文化部

部長 亀井 千夏

【幹事退任】

・高瀬学区

土田 隆文

【優良功労育成者表彰】

・鈴川学区

小玉健太郎

【優良功労育成者表彰（団体の部）】

・第三学区子ども会育成連合会

【山形市子ども会育成連合会感謝状】

・山形市子ども会育成連合会

会長 佐藤 博之

山形イブニングロータリークラブ様より 「モルック」「横断幕」贈呈式

9月1日(月)山形イブニングロータリークラブ様（浦山 一豊 会長）の例会におきまして、モルック5セットと、レク部行事で掲出する横断幕を贈呈いただきました。

御礼の言葉として、前田会長より、これまでに贈呈いただいたモルックは市内各地区の子ども会や地域行事に貸し出され、各地で大会が盛んに行われていることや、昨年度開催された市子連のモルック大会は参加小学生100名という、とても大きな規模で開催されたことなどを報告しました。

またモルックの簡単なルール説明も行い、山形イブニングロータリークラブ会員の皆様にも、更に興味をもっていただきました。

山形イブニングロータリークラブ様の温かいご支援に感謝し、大事に活用させていただきます。大変ありがとうございました。



(写真右 浦山会長、左 前田会長)



「モルック」無料貸出します

今回贈呈いただいたものを含め市子連で所有しているモルックは20セットとなりました。

山形市内の学区連合会、単位子ども会、PTAなどにも無料で貸し出していますので、各学区代表者を通してお気軽にお問い合わせください。



編集後記 「かがやく瞳第53号」をご覧いただきありがとうございます。

現組織と今年度の行事等ご紹介させていただきました。今後行われる行事の取材を通して、頑張る子どもたちの、たくさんの笑顔あふれる姿を見ることができるようになればと思います。また、かがやく瞳を通して子ども会育成連合会の活動を知っていただければ幸いです。今回ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

文化部長 鹿野 直人



編集委員 会長 前田浩一（南沼原）・副会長 安達恭一（鈴川）・部長 鹿野直人（鈴川）・副部長 齋藤 勲（第五）
小野崇文（宮浦）

令和七年度 山形市子ども会育成連合会常任委員名簿

期間 令和7年5月総会～令和8年5月総会まで

会長	前田 浩一（南沼原）	副会長	小笠原知実（大曾根） 柴田専太郎（鈴川）	齋藤 勲（第五） 小林 一善（南） 鹿野 直人（鈴川）
ブロック長	中央北部 安喰 浩之（第四） 東部 鹿野 直人（鈴川） 西部 松田 勇人（南山形）	中央南部 齋藤 勲（第五） 北部 遠藤 政幸（千歳） 南部 荒木 崇行（蔵王一）		
レクリエーション安全部	部長 安喰 浩之（第四） 菅原 啓史（第九） 豊川 剛（第六） 村上 勝彦（高瀬）	副部长 遠藤 政幸（千歳） 日下部陽子（第九） 川元清一郎（第十） 矢萩 由香（金井）	三宅 明（第六） 柴田専太郎（鈴川） 本田 佳実（桜田）	
リーダー研修部	部長 松田 勇人（南山形） 宇野 泰寛（第三） 前田 英樹（第八） 丹野 俊哉（大郷）	副部长 荒木 崇行（蔵王一） 岩松 幹夫（第二） 小林 一善（南） 長内 幸樹（出羽）	山口 真（第二） 高嶋 知幸（楯山） 園田 直子（南沼原）	
文化部	部長 鹿野 直人（鈴川） 矢作 尚男（第七） 原谷 咲子（南） 鈴木 拓也（東沢） 亀井 千夏（南沼原）	副部长 齋藤 勲（第五） 川村 由香（西） 菅野 絃子（南） 菅野 寛子（東）	山内 理沙（南） 八畝 卓（南） 小野 崇文（宮浦）	
事務局（幹事）	幹事長 伊藤 健二（第九） 正務 宇野 泰寛（第三） 副務 前田 英樹（第八） 正会計 菅野 寛子（東） 副会計 本田 佳実（桜田） 正表彰・会場 小野 崇文（宮浦） 副表彰・会場 木村 秀喜（出羽） 監事 川村 由香（西） 村上 勝彦（高瀬） 矢萩 由香（金井）	狩野 正昭（鈴川）		

令和七年度 各学区の主な活動予定

各学区の主な活動状況を掲載しました。
詳細につきましては各学区の子ども会にお問い合わせください。

第三	ゴミ拾い、スケートorモルック
第七	モルック大会2回
第九	ボルダリング、ボウリング、菓子作り体験、かまくらキャンドル
西	町内会：夏・秋祭り、ダンス、太鼓
第二	陶芸教室、ラジオ体操、子ども御輿、花笠まつり参加、ボールゲーム、バーベキュー
第五	ふるさと秋祭り（山大生協力）→10月18日13～16時 第五小学校
第六	だがしや楽校、だるまさんが転んだ（5月25日実施）
第八	馬見ヶ崎川でのマスつかみ取り、陶芸教室
南	ドッチボール、モルック、スケート
鈴川	モルック体験会、鈴川祭り出店
東	一年生歓迎会、ラジオ体操、夏祭り、子ども御輿
楯山	プール、ラジオ体操、草刈、ゴミ拾い、盆踊り、地区運動会、子ども御輿、文化祭、ソフトバレー
高瀬	モルック体験会、べにばな祭り出店
千歳	ゴミ拾い、文化祭
出羽	モルック、文化祭出店、ゴミ拾い+お菓子すくい
大郷	ドッチボール、文化祭
宮浦	御輿、ボウリング
南山形	モルック体験会
南沼原	芋煮会、御輿
蔵王一	モルック体験会、御輿
桜田	御輿、ラジオ体操、盆踊り、レクリエーション、歓送迎会
山寺	御輿、文化祭出店、こけし雪だるまコンテスト
金井	ラジオ体操、作品展、ふれあい広場

社教連会報

発行 一般社団法人 全国社会教育委員連合

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-1-6
日本弘道会ビル7階 TEL 03-6380-8540

令和7・8年度の役員が決定

会長

鈴木 眞理 (学識経験者)

副会長

大島 まな (学識経験者)

神山 敬章 (学識経験者)

大橋 清司 (岩手県)

野崎 洋司 (大阪府)

常務理事

豊田 政治 (学識経験者)

理事

岩野 眞志 (北海道)

加藤 寿一 (秋田県)

小池 茂子 (神奈川県)

岩崎 哲 (群馬県)

天野 知子 (岐阜県)

山口 恵照 (三重県)

辻 敏弘 (和歌山県)

田中 理絵 (山口県)

小方 直幸 (香川県)

久保ひろみ (福岡県)

安部 武夫 (熊本県)

津田 英二 (神戸市)

出口 寿久 (札幌市)

加藤 重義 (山梨県)

田中 謙二 (税理士)

監事



顧問

山崎 清男 (学識経験者)

特別研究員

稲葉 隆 (前常務理事)

工夫と熱意と

全国社会教育委員連合 会長

鈴木 眞理



全国社会教育委員連合の会長を引き続き担わせていただくことになった。2年前の『社教連会報』には、継続と変革のバランスを心がけながら、新たな動きを創出できるかが問われていると書いた。多くの方の協力で、新規事業等構想検討委員会を作り、次のステップの準備をし、『社会教育委員のための新Q&A』(仮称)は、今年度中には刊行の運びとなる。でも、次々に、新たな課題が出て来る。なんなのだろう。「当事者意識」を持つことは重要だろうけど、そこに問題があるような気もする。や、どこかの国などのように、「自分ファースト」を貫くことが、いろいろな場面で多くなっていることも、関係しているのかもしれない。「当事者意識」というのは、「自

分ファースト」ではないのだけだな。

委員連合は、理事会・総会は年3回、事務局は、週5日10時17時で開き、情報の提供もこの『会報』やHPを開設し、適時行っている。しかし、いろいろなことが、案外知られていない。役員は無給だし、事務局長、事務局次長は時給がほぼ最低賃金。『社教情報』の編集会議や委員会などは、オンラインで無給、さまざまなことが、民間の「マトモな」学会のような運営スタイルなのだ。大会・会議などへの出席旅費は、副会長のみ年間5万円(顧問は3万円)上限で補助があることはある。社教連は県等の社会教育委員連絡協議会からの年会費(10万円)を基本にして成り立っているが、「10万円も払っている」というようなことが言われる。危険なバランスと善意でギリギリ可能になっているのに。

この団体、そこそこの歴史もあり、先人の努力もあって、基本的な構造はできあがってきたので、関係者それぞれが、ちょっととした工夫とちょっとした熱意を持って、活動を継続できればいいのだろう。「いい思い」をしようなどと思う人が出て来ると、すぐに消滅してしまうような団体なのだけだ。

社会教育委員のみなさまのお力に



常務理事 豊田 政治

今年度の第1回総会で常務理事を仰せつかりました豊田政治(とよだ まさひさ)でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

この3月まで小学校に勤務しており、定年延長に伴い、61歳まで勤めました。

この間、神奈川県教育委員会で社会教育主事として4年、指導主事2年、専任主幹(社会教育推進担当)を3年勤めました。

また、神奈川県社会教育委員連絡協議会の事務局長として、社教連の総会、大会に出席してまいりましたので、社教連の感覚をもっております。こうした社会教育行政職員としての経験を生かし、都道府県・政令指定都市の社会教育委員連絡協議会のみなさまや社会教育行政職員の方々のお力になれるよう、引き続きさまざまな面で、運営につとめてまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

理事会・総会報告

令和6年度

第3回理事会・第3回総会の開催

令和6年度第3回理事会は、令和7年2月21日(金)の午前に開催されました。また、第3回総会は同日の午後に開催されました。理事会及び総会の議題等は次のとおりでいずれも承認されました。

【議事】

第1号議案 令和7年度事業計画(案)・収支予算(案)について

第2号議案 第67回全国社会教育研究大会(岩手大会)について

第3号議案 第68回全国社会教育研究大会(大阪大会)について

第4号議案 第69回全国社会教育研究大会(愛知大会)について

【報告】

第66回全国社会教育研究大会(茨城大会)について

令和7年度 第1回理事会・総会 第2回理事会の開催

令和7年度第1回理事会は、令和7年5月23日(金)の午前に、また、第1回総会は同日の午後に開催されました。

理事会及び総会の議題等は次のとおりでいずれも承認されました。また、総会で次期役員について承認をいただいた後に休憩に入り、その時間に新役員による第2回理事会が開催されました。その場では、定款第19条等に基づき次期の会長等が決定されました。

【議事】(理事会)

第1号議案 令和6年度事業報告・決算報告について

第2号議案 第67回全国社会教育研究大会(岩手大会)について

第3号議案 第68回全国社会教育研究大会(大阪大会)について

第4号議案 第69回全国社会教育研究大会(愛知大会)について

【報告】

次期役員(理事・監事)について

第6号議案 顧問の選任について

第7号議案 事務局長の選任について

第8号議案 研究員の選任について

【報告】

新規事業等構想検討委員会について

第66回全国社会教育研究大会(茨城大会)について

は、定款第19条等に基づき次期の会長等が決定されました。

【議事】(理事会)

第1号議案 令和6年度事業報告・決算報告について

第2号議案 第67回全国社会教育研究大会(岩手大会)について

第3号議案 第68回全国社会教育研究大会(大阪大会)について

第4号議案 第69回全国社会教育研究大会(愛知大会)について

第5号議案 次期役員(理事・監事)について

第6号議案 顧問の選任について

第7号議案 事務局長の選任について

第8号議案 研究員の選任について

【報告】

新規事業等構想検討委員会について

第66回全国社会教育研究大会(茨城大会)について

【議事】(総会)

第1号議案 令和6年度事業報告・決算報告について

第2号議案 第67回全国社会教育研究大会(岩手大会)について

第3号議案 第68回全国社会教育研究大会(大阪大会)について

第4号議案 第69回全国社会教育研究大会(愛知大会)について

【報告】

次期役員(理事・監事)について

第6号議案 顧問の選任について

第7号議案 事務局長の選任について

第8号議案 研究員の選任について

【報告】

新規事業等構想検討委員会について

第66回全国社会教育研究大会(茨城大会)について

ほか

ほか

ほか

ほか

ほか

ほか

「社会教育委員のための」【新】Q & A(仮称)の刊行に向けて

特別研究員(前常務理事)

稲葉 隆

現在発行中の「社会教育委員のためのQ & A」(平成26(2014)年改訂)の全面的な改訂に向けて、令和5(2023)年度第3回理事会で編集委員会の設置が承認されました。

その承認を踏まえ、編集委員長に津田英二先生(神戸大学)、委員に神部純一先生(滋賀大学)、原義彦先生(東北学院大学)の計3名を委嘱し、編集委員会を設置しました。

編集委員会では章立てなどの内容構成の検討や、執筆者候補のリストアップなどを行い、それを踏まえ執筆打診を行いました。当初予定よりも発行遅れが生じました。

内容面では、「社会教育委員の役割と職務」、「社会教育行政の役割と社会教育委員」などの基礎的・基本的な内容に加え、変化する現代社会の課題と社会教育の役割などにも言及する予定にしています。

令和6(2024)年度末現在、15名程度の方に内諾をいただくことができましたので、出版社との折衝を開始し、令和7(2025)年度中に発行する予定で進めていくところです。

新規事業等構想検討委員会の報告
特別研究員(副常務理事) 稲葉 隆

全国社会教育委員連合(「社教連」)では、今後の社教連の運営等のあり方等を構想するために、定款に規定する特別委員会として2024(令和6)年度に「新規事業等構想検討委員会」を設置しました。委員には熊谷慎之輔先生(岡山大学)をはじめ全13名の方を委嘱しました。

第1回目の会議では社教連全体の活動や事業、現在の運営上の課題、さらに、会員構成の状況など、幅広いさまざまなことがらについて説明及び意見交換等を行い、各委員の共通理解を図りつつ進めました。

その後、現在の課題だと考えられる以下の4つのテーマの小委員会を設けて進めました。

- ① 広報・情報発信に関する課題
 - ② 社教連の都道府県・政令市への支援に関する課題
 - ③ 都道府県・政令市の社教連及び社会教育委員に関する実態把握に関する課題
 - ④ 都道府県・市町村の個々の社会教育委員の会議等の活性化に向けた具体的な支援策に関する課題
- いずれの小委員会でも課題の内容が大きく、また、課題同士が相互

に重なっていることもわかり、今後の社教連の運営等の改善の方向や具体策を単純には示せないことが、明らかになりました。

【小委員会で出された今後の検討の観点(例示)】

- 都道府県等の社会教育委員連絡協議会等(県社教連等)の構成や運営方法はかなり多様だといふ実態を前提にすることが必要
- 県社教連等は何を知りたがっているか、社教連が何を把握するべきか、検討と整理が必要
- 新人の社会教育委員、社会教育委員担当職員を対象にした研修は重要な意味を持つ

委員会設置の目的である「今後の社教連の改善の方向」に関しては、引き続き検討を行うことが必要であることがいずれの小委員会でも確認されました。

検討委員会の最終的なまとめは、小委員会でも明らかになった観点を常務理事が整理して取りまとめ、委員長はじめ全委員に確認をしていただきました。

社教連としては、2025(令和7)年度も継続して検討を進め、運営や事業等の改善の方向を見出し、していきたいと考えています。
なお、最後になりましたが、検討委員の皆様には、謝金無しという依頼にも関わらず、お忙しい中、お引き受けいただき、オンライン会

議で活発な検討をしていただきました。紙面を借りて御礼を申し上げます。けるとともに報告いたします。

【検討委員】(五十音順)

- 赤尾 勝己(関西大学)
- 安藤 耕己(山形大学)
- 伊藤 真木子(青山学院大学)
- 大木 真徳(青山学院大学)
- 工藤 朝博(北海道社連)
- 熊谷 慎之輔(岡山大学)※委員長
- 小池 茂子(聖学院大学)
- 齋藤 陽子(前栃木県社教連)
- 白井 淳子(国研社会教育実践研究センター)
- 関 弘紹(認定NPO法人S.S.F)
- 中島 あり子(静岡県社教連)
- 仲村 拓真(山口県立大学)
- 本庄 陽子(青山学院大学)

「社教情報」の購入を



社教連では年に2回(2月と9月)『社教情報』を発行しています。全国でご活躍の社会教育委員の皆さまを結び、全国各地の社会教育委員の活動の交流と研修の資料として活用していただけるよう作成しています。

市町村単位で購入されていますが、個人でも全国社会教育委員連合のホームページの「書籍注文」から購入することができます。皆さまのご購読を期待しております。

令和7年度

都道府県・政令指定都市社会教育委員
連絡協議会等事務局担当者会議のご案内

毎年、全国社会教育研究大会初日に都道府県・政令指定都市(以下「都道府県等」)の社会教育委員連絡協議会等(以下「県社教連」)の事務局担当者を対象に研修と情報交換、経験交流の機会として実施しています。

社会教育委員の活動の活性化に向けて、都道府県等の県社教連が、どのような運営や活動を行っているか、県社教連に事例発表していただき、情報交換や研究協議等を行います。関心のある方はご参加いただけます。参加を希望される方は令和7年10月15日(水)までに社教連事務局までご連絡ください。

開催日: 令和7年10月29日(水) 16:00~17:30

会場: アイーナ(いわて県民情報交流センター)

所在地: 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1

テーマ: 都道府県等社会教育委員連絡協議会の運営と活動 その他

事例発表者: 北海道社会教育委員連絡協議会事務局

事務局長 工藤 朝博 氏

岩手県からの
メッセージ

共に学び支えあう社会教育の実践 〜ウエルビーイングの実現に向けて〜

第67回全国社会教育研究大会岩手大会
実行委員長 大橋 清司



岩手大会の開催地である岩手県盛岡市は、江戸時代の盛岡藩主の居城として盛岡城の築城を機にまちづくりが進められた400年の歴史を刻む城下町であり、情緒ある街並みと美しい川や緑に囲まれた都市として発展してきました。中心市街地には、壮大な石垣を有する城跡公園や明治時代からの銀行建築などの歴史的な建物が多くあることから、「歩いて楽しむまち盛岡」として広く知られております。

2023年の1月には、コーヒー店、わんこそば、書店やジャズ喫茶などの文化が根付く街であることが評価され、アメリカのニューヨーク・タイムズ紙(電子版)が発表した「2023年に行くべき52カ所」に選出されました。現在は、国内外から多くの観光客が本市を訪れ、街中に賑わいをもたらされております。教育の分野では、岩手県にお

いて、60年以上の歴史を持つ「教育振興運動」により、学校、家庭、地域の成長を支え、教育課題の解決を目指しております。また、盛岡市においては、石川啄木をはじめ、原敬や新渡戸稲造、米内光政など多くの偉人を輩出した地でもあり、学校では「盛岡の先人教育」を推進し、地元にゆかりのある先人の生き方を学ぶことにより、次代を担う子どもたちに「夢」と「誇り」と「志」を育むことを目的とした特色ある教育に取り組んでおります。

このたび、本県において「第67回全国社会教育研究大会岩手大会・令和7年度東北地区社会教育研究大会・第70回東北地区公民館大会・第71回岩手県公民館大会・令和7年度岩手県社会教育委員会研究大会」が開催され、大勢の社会教育委員をはじめとする社会教育関係者の皆様をお迎

えできることは大きな喜びであります。

さて、現代の社会は、人々との「つながり」の希薄化、困難な状況にある人々に関する課題が顕在化・深刻化しております。本県においても、平成23年の東日本大震災、その後の新型コロナウイルス感染症の流行などにより、人口減少に歯止めがかからず、地域のつながりが失われつつあります。

そのように世界や地域が分断されてしまった今だからこそ、地域における学びという観点から、学んだ成果を個人や社会の課題解決に生かすことを通して、人と人との関わりを作り出し、地域コミュニティの基盤づくりにつなげる社会教育を実践することは、地域の絆を深めるとともに、個人だけでなく、地域が幸せや豊かさを感じられる場となるウエルビーイングを実現さ

せることにつながるものと考えます。

このことから、本大会の研究主題を「共に学び支えあう社会教育の実践〜ウエルビーイングの実現に向けて〜」といたしました。記念講演やシンポジウム、5つのテーマを設定した分科会での意見交流等を通じて、社会教育に携わる仲間たちが、地域の幸せを願い、より良くしていこうとする実践を共有するとともに、「自分たちが学び、発見したことを地域の課題解決にも生かすことができる」という社会教育の魅力と可能性を実感できる大会にしていきたいと考えております。

多くの皆様が、本県において、街並みや、地酒、盛岡三大麺、短角牛などの岩手の味を御堪能いただければ幸いです。皆様の御参加を心よりお待ちしております。

ご案内

第67回全国社会教育研究大会岩手大会

令和7年度東北地区社会教育研究大会・第70回東北地区公民館大会
第71回岩手県公民館・令和7年度岩手県社会教育委員研究大会



学びと絆で未来を拓く！ 社会教育のイーハトーブをめざして in いわて

岩手山を中心に広がる山々。海と陸が織りなす造形が美しい三陸海岸。世界遺産「平泉」や「橋野鉄鉦山」、「御所野遺跡」などの歴史と文化を物語る多くの史跡。さらに県内各地に点在する温泉郷では、日々の疲れを癒してくれる宿が人々を温かく迎え入れてくれます。この岩手県に、全国の社会教育関係者が一堂に会し、共に学び、絆を深め、地域の未来のために語り合うことができるのは何よりの喜びであり、私たちの幸せです。

さて、現代の社会は、人と人との「つながり」の希薄化、困難な状況にある人々に関する課題が顕在化・深刻化しており、社会教育が果たす役割はますます重要になっています。

そのような状況の中で開催される今大会の研究主題「共に学び支えあう社会教育の実践」は、個人の幸せとともに、地域が幸せや豊かさを感じられるものとなるウェルビーイングの実現のために、着実に取組を「実践」していこうとする私たちの決意でもあります。

文学、農業、教育、地質学などさまざまな分野に才能を発揮した岩手の偉人・宮沢賢治は詩「雨ニモマケズ」の中で「東ニ病氣ノコドモアレバ「行ッテ」看病シテヤリ」と記しています。宮沢賢治は、イーハトーブという理想郷の実現のために、課題解決への対策を「実践」することが大切だと考えていたのではないのでしょうか。

この大会では、社会教育委員をはじめ社会教育に携わる仲間たちが、地域の幸せを願い、より良くしていこうとする実践を共有したいと思います。そして、「自分たちが学び、発見したことを地域の課題解決にも生かすことができる」という社会教育の魅力と可能性を実感できる大会にしていきたいと考えます。

岩手県社会教育連絡協議会会長
第67回全国社会教育研究大会岩手大会実行委員会委員長 大橋 清司

●大会の概要

- 1 研究主題 共に学び支えあう社会教育の実践～ウェルビーイングの実現に向けて～
- 2 期 日 令和7年10月29日(水)～31日(金)
- 3 会 場 盛岡市民文化ホール大ホール(盛岡市盛岡駅西通2-9-1)ほか
- 4 参加費 一人 5,000円(大会資料代)
- 5 大会日程

【1日目】 10/29 (水)			全国社会教育 委員連合 理事会 14:00～15:30	都道府県・政令指定都市 社会教育委員連絡協議会等 事務局担当者会議 16:00～17:30				
【2日目】 10/30 (木)	全国社会 教育委員 連合総会 10:00～ 11:30	受付 11:30～12:30	全体会				東北社連 東北公連 理事会 17:45～18:15	情報 交換会 18:30～20:30
			アトラ クショ ン 12:30～ 12:50	開会行事 表彰式 13:00～13:50	記念講演 14:00～15:20	シンポジウム 15:30～16:50	閉会 行事 17:15 終了	
【3日目】 10/31 (金)	受付 9:00～ 9:30	分科会 9:30～12:00	分科会テーマ					
			第1分科会	社会教育委員の役割				
			第2分科会	家庭教育支援				
			第3分科会	学校・地域の連携・協働				
			第4分科会	人づくり・つながりづくり・地域づくり				
			第5分科会	公民館(社会教育施設)の役割				

わんこきょうたいは、(公財)岩手県観光協会の登録商標です。

北から南から

繋がるけど、繋ぐけど、繋げていくけど



愛知県社会教育委員
連絡協議会
会長 谷中 緑

「初めて社会教育委員になって戸惑っていたけど、ハンドブックを見て役割がよく分かりました。でも話し合いで、子育てをしながら皆さんのような社会活動を引張ることはとてもできない、と不安にもなりました」とPTA連合会代表の女性。「大丈夫ですよ。あなたの立場での活動で、今日話し合ったことを社会教育委員として意識することで、周りの方への言葉かけも変わり、繋がりを深められますよ」——昨秋の交流会でのグループ討論の会話です。社会教育委員同士が繋がることを実感し、繋ぐことの意義を再確認したひとときでもありました。

約590名の委員からなる愛知県社会教育委員連絡協議会は、愛

知県教育委員会あいちの学び推進課や愛知県公民館連合会と連携し、様々な研究大会や地域づくり推進大会、県主体や支部ごとの研修会、そして交流会などを行っています。講演会で喫緊の課題への知見を深め、その対応を共に学んでいます。また、各地域の実践報告や課題についての討論は、情報共有するだけにとどまらず、各地区における活動への広がりや深まりに繋がっています。


また、社会教育委員や地域住民が社会教育活動を推進するにあたり、拠り所のできるハンドブックを発刊しました。冒頭の対話は、令和6年度発刊の『あいちの社会教育委員ハンドブック』を活用した交流会での討論の一部です。会の終わりには、「悩みが解決してよかった」「楽しかった」「また話りたい」などの声が聞かれました。令和7年3月には、『地域と学校の連携・協働推進ハンドブック』の集まれ！地域の力 輝け！学校のミライ』の発刊に至りました。

今求められている社会教育は、学校と地域の連携協働にあると考えます。コミュニティ・スクールの導入や地域学校協働活動の充実を後押しするために、愛知県生涯学習審議会社会教育分科会と協力して編集したものであり、事例や図

を数多くに取り入れ、誰が読んでも分かりやすいものになっていきます。より多くの人の目に留まるよう併せて概要版リーフレットも作成しました。このハンドブックを夏季研修会で活用した市町村があると聞き、生きた指針となつてきていると捉え、喜びでもあります。

さて私は豊橋市社会教育審議会提起された課題について意見交換や助言をしています。現在は、中学校部活動の地域展開」がテーマです。連綿と続いてきた生涯学習や、近年の放課後の子どもたちの居場所づくりのノウハウを生かして推進しているところです。こういった取組も、今後、研修や情報交換で提供していきたいと考えます。

「教育教養が大事」今日行く所がある、今日用事がある」と、言われ続けてきました。現在では、交流コミュニティで楽しく過ごせば、元気に長生きする、と言われるます。私たち社会教育委員は地域住民のウェルビーイングを支える重要な役割があります。そんな活動をしている社会教育委員や地域と繋がる大人の姿を観ている未来を築く子どもたちが、私たちも！となるよう繋げていくことこそ、私たちに課せられた宿題、いえ、やりがいと考えます。



社会教育の明日を拓く

社教情報 No.92

令和7年2月発行 360円

社教情報 No.92

令和7年2月発行 360円

特集テーマ 超高齢社会と社会教育委員

《巻頭論文》 社会教育は「超高齢社会」をどう捉えるか 文教大学学園理事長 野島 正也

《特集》 神部 純一、中川 法夫、丸田 昭文、古市 勝也、生尾 光

《この人に聞く》 ソーシャルコーディネーターかながわ代表理事 手塚 明美 取材：坂口 緑

《社会教育委員の活動》 見澤 淑恵(水戸市)・早川 日出利(苦前町)

《答申・提言》 指宿市社会教育委員の会議答申(令和6年3月) 石川 賀一

《社会教育委員Q&A》 宮地 孝宣

《社会教育委員リレートーク》 群馬県から栃木県

編集・発行 (一社) 全国社会教育委員連合

地域の特性を反映した 社会教育



愛媛県社会教育委員
連絡協議会
会長 今村 暢好

2024年7月より当職を務め
させていただいております。

社会教育は、社会教育法2条に
よって、組織的な教育活動を幅広
く定義づけられていて、同法3条
1項によって、国及び地方公共団
体の任務として「すべての国民が
あらゆる機会、あらゆる場所を利
用して、自ら實際生活に即する文
化的教養を高め得るような環境を
醸成するように努めなければなら
ない」と定められている非常に重
要で広範な教育活動です。法律
という形で「實際生活に即する文
化的教養」を高める「社会教育」が
定められていることについて、認
知度が高くないことに問題性を感
じます。住民のニーズを把握し、
文化的教養を高め得るような機会
づくりに貢献しなければならぬ
と痛感しております。

他方で、社会教育の機会・場所
の外的要素ばかりに注目するの
ではなく、「文化的教養を高め得る」
質的要素にも注力しなければなら
ません。社会教育は、その地域ご
とに適した形で提供され醸成され
るべきであることも、同法は予定
しているものと解釈できます。地
域の文化的な基盤を創造する役割
を担っているといっても過言では
ない社会教育は、地域の特性から
社会教育内容を抽出して、それを
社会に還元する性質を有している
のであり、そのためにも各地域の
文化的特性を理解することが大前
提になると思います。

愛媛県では「愛媛県教育振興に
関する大綱(令和5～8年度)」に
おいて「社会総がかりで取り組む
教育の推進」が掲げられ、令和6
年度に開催された愛媛県社会教育
研究大会では、「ウエルビーイン
グを実感する地域づくり～未来に
つなげる社会教育を目指して～」
を研究主題として開催しました。
大会では、基調講演「ふるさとを
支える社会教育のこれから」(遠
藤敏朗氏)をはじめ、分科会(1次
世代を担う青少年の健全育成と地
域の活性化「新居浜次世代ネット
ワークの取組」、(2)学びを通じた

人づくり・地域のつながりづくり
「本で人をつなぎ 地域に活力を生
む冊子『いよし百冊物語』」、(3)地
域全体で子どもを見守り育む家庭
教育支援「わがまちうわじまの協
働連携社会づくり」は、どれも地
域の特性を理解した独創性の極め
て高いものでした。特に、新居浜
次世代ネットワークは、若者が中
心となって発展している活動であ
り、このような取組みが他の団体
や地域においても行われることに
期待しております。

愛媛県は、温暖な気候のもとで
各地域に多彩な文化的基盤がす
でに備わっていて、それらをどのよ
うに社会教育の中に抽出し地域に
還元・醸成させていくかが今後も
重要となつてまいります。たとえ
ば、松山市であれば、正岡子規に
代表される俳句文化や子規にまつ
わる文学文化等があり、俳句を中
心とした社会教育活動を様々な団
体が全世代の市民・県民に向けて
展開していることが挙げられます。
まだ、当職に就任して2年目で
すが、地域の社会教育の充実・発
展のために尽力してまいりたいと
考えております。



社会教育の明日を拓く 社教情報 No.93 令和7年9月発行 360円

特集テーマ 地域の活性化と社会教育委員

- 《巻頭論文》 地域社会の活性化と社会教育 関西大学名誉教授 赤尾 勝己
- 《特集》 佐々木保孝、三浦 研二、山藤 弘子、小浜市社会教育委員の会事務局、足立喜代美
- 《この人に聞く》 cotoco (株)代表、長崎県社会教育委員 柳 まり子 取材：大島 まな
- 《社会教育委員の活動》 野澤 令照(宮城県)・田中 博美(大川市)
- 《答申・提言》 第37期新潟県社会教育委員の会議「生涯学習の実現に向けた新しい地域をつくる
社会教育の在り方(審議のまとめ)」 白井 淳子
- 《社会教育委員Q&A》 神部 純一
- 《社会教育委員リレートーク》 茨城県から福島県

編集・発行 (一社) 全国社会教育委員連合

令和7年度全国社会教育委員連合表彰 受賞者一覧

本年度の「全国社会教育委員連合表彰」の受賞者が決まりました。
令和7年10月30日(木)、第67回全国社会教育研究大会岩手大会の開会行事の席上で、次の60名の方が表彰されます。
おめでとうございます。

都道府県名	所属自治体	氏名
北海道	弟子屈町	金澤三恵子
	留萌市	熊澤 秀子
	釧路市	田丸 典彦
	網走市	成瀬三津子
	佐井村	岩清水秀一
青森県	久慈市	大沢リツ子
岩手県	南三陸町	阿部 一郎
宮城県	鹿角市	石井 勲
秋田県	真室川町	栗田 良美
山形県	小野町	横田 貞子
福島県	新地町	大須賀 昇
	土浦市	小泉 光正
茨城県	石岡市	平澤 正則
栃木県	宇都宮市	河田 隆
群馬県	富岡市	下田貴美子
埼玉県	幸手市	藤原 徹也
	吉見町	矢場 光夫
千葉県	横芝光町	永野 貞雄
	鋸南町	鈴木正一郎
	館山市	石橋 寿一
東京都	東久留米市	菅沼 法子
神奈川県	山北町	河合 剛英
	五泉市	鈴木紀美子
新潟県	立山町	澤井 隆
富山県	内灘町	米田 満
石川県	越前町	時田 静香
福井県	越前町	山本 尚美
山梨県	斐崎市	榊形 昭平
長野県	茅野市	矢崎美知子
岐阜県	木祖村	原 悦子
	本巣市	天野 知子

静岡県	長泉町	土屋 悟
愛知県	大治町	石黒 清介
	蒲郡市	鈴木 庸子
三重県	四日市市	竹下すま子
滋賀県	東近江市	北川 久補
京都府	大山崎町	森 一真
兵庫県	伊丹市	波多江みゆき
奈良県	橿原市	吉岡 眞
和歌山県	紀の川市	楠 富晴
鳥取県	大山町	野口 愛子
島根県	邑南町	荒水 博昭
広島県	江田島市	白澤 文恵
山口県	周防大島町	河原 光雄
徳島県	海陽町	乃一 俊治
香川県	さぬき市	石原 新造
愛媛県	宇和島市	梶田 浩
高知県	香南市	小松喜久子
福岡県	上毛町	西 和政
	宮若市	神谷 博之
佐賀県	白石町	諸岡 利公
長崎県	西海市	佐々木義信
熊本県	阿蘇市	松下レイ子
大分県	日出町	矢野 禎司
宮崎県	高原町	相良 禮子
鹿児島県	枕崎市	吉松 幸夫
指定都市	与論町	富 敏紀
	相模原市	金子 友枝
	名古屋市	原田 信之
	北九州市	野依 智子

事務局だより

今後の会議予定

今年度の役員、会員、事務局を対象にした会議の予定は次のとおりです。ご予定をお願いいたします。

- 令和7年度第3回理事会
期日…令和7年10月29日(水)
時間…14時から15時30分まで
会場…アイーナ(いわて県民情報交流センター)
- 令和7年度第2回総会
期日…令和7年10月30日(木)
時間…10時から11時30分まで
会場…アイーナ(いわて県民情報交流センター)
- 都道府県・政令指定都市社会教育委員連絡協議会等事務局担当者会議
期日…令和7年10月29日(水)
時間…16時から17時30分まで
会場…アイーナ(いわて県民情報交流センター)
- 令和7年度第4回理事会
期日…令和8年2月20日(金)午前
場所…日本弘道会ビル講堂
- 令和7年度第3回総会
期日…令和8年2月20日(金)午後
場所…日本弘道会ビル講堂

編集責任者／豊田政治
編集協力者／工藤朝博・本庄陽子